

(様式1・小学校用①)

令和元年度 学 校 評 価 報 告

草加市立瀬崎小学校

(令和2年1月14日作成)

1 学校教育目標 学校教育目標 心豊かで たくましい子 ー明るく・正しく・美しくー 目指す学校 「笑顔いっぱい」の学校」 「学びいっぱい」「やさしさいっぱい」「たくましさいっぱい」	
2 重点目標・努力目標 ＜笑顔いっぱいの学校をつくる＞ 「学びいっぱい（学んだことを生かす）」 「たくましさいっぱい（健康な体を作る）」 「やさしさいっぱい（思いやりの気持を育てる）」	3 前年度の成果と課題 成果 ○瀬崎小学校区研究発表会では、幼・保・小・中で連携しながら、これまでの成果を発表することができた。 課題 ●職員の負担軽減の見直しを行い、ワークライフバランスの改善を行っていく。

4 評価表 ※評価基準「A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である」				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○学校の重点課題を、全教職員が一体となり、チーム瀬崎として取り組めた。 ●「心豊かで」の取組で、読書活動をさらに組織的に行うことで、読む力の向上と豊かな心を育んでいく。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	B	○道徳の研修1本に絞り、新たに他市より指導者を招き、計画的に進めることで充実した校内研究を行うことができた。 ●各学力調査において、県の平均の値を意識した取組の充実をさらに考えていきたい。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	B	○実際に台風の対応があり、職員全体でも危機意識を高めることができた。 ●被害状況や情報共有が難しく、もう一度対応の仕方を見直したい。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○校内の安全確認、環境の改善に積極的に取り組めた。 ●老朽化が目立つところが多く、早急に改善していくよう取り組んでいく。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会、 学校評議員制度の活用 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	A	○学校公開や学校評議員会により、地域に情報を発信することができた。ふれあい広場瀬崎の活動を通して、小・中・地域が一体となった取組を行うことができた。 ●コミュニティスクール実施に向けた組織づくりを進めていきたい。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じた教育課程の編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○今年度の取り組みを計画表にまとめ、瀬崎中学校区で共有した。取り組んでいく内容を分かりやすくし、実行に移すことができた。 ●これまで取り組んできた内容の積み重ねを今後も継続していきたい。

草加市立瀬崎小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	15年間を通じた教育課程の編成、実施 - 教育計画の作成 - 教育活動の評価 - 目標、方針の周知 - 授業時数の配当、確保	B	○重点課題には、時間の確保を行い、課題解決に向けて取り組むことができた。 ●新学習指導要領等、様々な角度からさらなる教育課程の充実に取り組む。
	②教科指導	- 指導計画の立案 - 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 - 評価、評定の工夫 - 外部人材の活用	B	○校内研修の充実と朝自習の活用により学力向上に繋がった。 ●各主任により、各教科等の情報を校内に伝える体制を作り、広い教科における指導力の向上を目指す。
	③道徳教育	- 全体計画の作成 - 各教科との関連 - 道徳的実践力の育成 - 家庭、地域社会との連携 - いのちの教育の推進	B	○校内研修と指導者の講義などにより、理解を深めることができた。また、実践的な授業研究会により、道徳教育の理解が深まった。 ●児童・保護者へ適切な評価を伝えることができるよう改善に努める。
	④外国語活動	- 指導計画の立案 - 指導方法の工夫と改善 - 評価、評定の工夫 - 各教科、道徳教育との関連 - 中学校との連携	B	○外国語の完全実施を受け、教科としての意識が高まり、ALTとの連携がさらに深められた。 ●指導内容のさらなる工夫と改善を進め、授業を担当していない教員も意識を高める必要がある。
	⑤特別活動	- 指導計画の立案 - 学級活動、学級経営 - 学校行事 - 児童会活動	A	○計画的な学校行事を行うことができ、代表委員会においても組織的な活動ができた。 ●学級活動の授業力の向上に向けて、全体で意識の共有を図る必要がある。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	- 指導計画の立案 - 指導内容の充実 - 指導方法の工夫と改善 - 評価の工夫 - 地域の人材・物的資源の活用	B	○5年生の枝豆栽培、4年生の福祉体験等ふるさと草加を意識した充実した活動を行うことができた。 ●指導と評価の見直しを行っていく。ふるさと草加をさらに意識した活動も行っていく。
	⑦生徒指導	- 組織的な生徒指導 - 問題行動への対処 - 教育相談、児童理解 - いじめ防止対策 - 保護者、地域、諸機関との連携	B	○生徒指導委員会をもとに、共通理解・行動のもと、指導にあたることができた。また、落ち着いて授業を受けることができない児童は、学校全体で対応できた。 ●引き続き、不登校児童への対応が必要である。
	⑧キャリア教育	- 計画の立案 - 指導内容の充実 - 中学校との連携 - 啓発的経験の充実 - 家庭、地域との連携強化	B	○特別活動全面実施を受け、(3)のキャリア教育の位置づけを明確にし、授業改善を行い、研鑽に努めた。 ●各学年での「キャリア教育」の充実に取り組む。
	⑨特別支援教育	- 個別の指導計画、支援計画 - 指導方法の工夫と改善 - 通常学級との交流 - 諸機関との連携 - 校内支援体制の整備	A	○教育支援室、かがやき特別支援学校と連携を行い、支援に努め、適切な指導を行った。様々な連携を行った指導を行ったことにより、保護者の理解も得ながら進めることができた。
	⑩学校図書館教育	- 指導計画、支援計画の作成 - 図書館補助員の活用 - 諸機関との連携 - 図書館の整備 - 図書館利用の工夫	B	○各学期に読書週間、図書委員のよるイベントの実施など読書に取り組む児童を増やすことができた。 ●学校だけでなく、家庭でも読書に取り組める児童をふやす児童を育てていきたい。
	⑪情報教育	- 教育計画の作成 - 校内研修の充実 - ICT機器の積極的な活用 - 情報モラル教育の推進	A	○プログラミング教育等を進めていくために研修会を設け、研鑽に努めた。 ●年間指導計画のプログラミング教育を意識して実践を深める必要がある。
	⑫人権教育	- 全体計画の策定 - 各教科との関連 - 人権感覚の育成 - 校内研修の充実	B	○人権標語、人権の木取組に参加し、人権感覚の育成に努め、取り組むことができた。 ●校内研修について、夏季研修のみになってしまっているため、校内研修の充実に努める。

草加市立瀬崎小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	①地域の力を学校に	・地域の安全と学校の安全確保	A	○ふれあい推進室やPTA、あいさつ運動と連携し、登下校の見守り、校内巡視を行う事ができた。 ●ふれあい推進室との協力を今後も継続的に行っていく。
	②体験活動の充実	・地域の方の専門性を生かす	A	○5年生の枝豆の栽培、3年生の平成塾による読み聞かせ、1年生の昔遊びなど地域と連携し、体験活動を行った。また、書き初め展の練習においても地域の指導者を招き行うことができた。 ●他学年の活動を充実させていく。
	③幼保小中連携の充実	・15年間を通じた教育課程の編成	B	○昨年度の発表を受け、今年度も継続した取り組みができた。これまでの実践が積み重ねとなり、一貫教育をさらに充実させたものにしていきたい。 ●担当教員が変わっても、継続して活動ができるように行っていく。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- (1) 学力向上に向けて、朝自習の時間における学習の取り組み、冬休み期間を利用したコバトン問題集の取り組み、朝自習における学習集中期間の設定等学力の向上に努めた。どの学年も熱心に取り組み、組織的に取り組むことができた。
- (2) 校内行事の精選、夏季休業日の会議の見直しに取り組み、負担軽減が行えた。また、管理職の声かけにより、平均在校時間を短縮することができた。
- (3) 教育支援室、かがやき、児童クラブ、児童相談所等のさまざまな関係機関と連携を行い、教育相談の取組を行った。
- (4) 瀬崎中学校区の幼稚園、保育園、小学校、中学校とともに協力体制をとり、幼保小中を一貫した教育に取り組みをさらに連携し、深めることができた。夏季研修において取組内容を確認し実践することができた。
- (5) 学校関係者評価では、今年度も落ち着いて授業に取り組む児童の姿や、熱心な教員の指導も良いとの評価をいただいた。

6 次年度の改善策

- (1) 新学習指導要領を実施するにあたり、各教科の授業内容の向上を図っていききたい。特に道徳活動は、積極的に校内研修に取り組む重点的に力を入れる。
- (2) 外部機関、教育委員会、地域等と連携し、不登校児童の数を減少させる。また、課題をもっている児童には全教員で寄り添い対応していききたい。
- (3) 平均在校時間を削減することはできたが、業務量の多さは変わらないので、業務量の軽減や分担をしていく必要がある。
- (4) 読書活動の充実に向け、さまざまな取組を行ってきたが、まだまだ家庭において読書ができていない状況なので、学校での取組を家庭にも浸透させるよう活動を行っていく。
- (5) 幼保小中を一貫した教育に向け、今後も瀬崎中、高砂小、せざき保育園、谷塚幼稚園と連携を深めていく。